

小さい幸せが

伊勢原市立大山小学校

五年一組 内村 優響

少し前にひいおばあちゃんが空に行きま

した。みんなにやさしかったです。

長い間、ひいおばあちゃんの面倒を家族で見

ていました。よく見ていたのはお母さんです

。お母さんはおばあちゃんの面倒を見ながら

ひいおばあちゃん、おばあちゃんが死んでか

ら何年後かにおじいちゃんの面倒。毎日毎日

お世話します。

子供のぼくには、たまに一しょに行って話を

したり、ご飯を一しょに食べたり、物を取っ

てあげたりかん簡単な事ばかりだけど、いつも

「ありがとう。助かるよ。」

と言ってくれました。お母さん達はトイレや

身体の世話、病院の送りとかやつきそい、ご

飯作り、連絡、話し合い。お母さん達はつか

れているのにいつぱい動いていました。でも

お母さん達は言っていました。

「みんなにいつぱい助けてもらって、幸せに
育ててもらったからできるかぎりね。」
と言い毎日通っていました。

死ぬ2年前にじ設に入って、コロナウイルス
が大変な事になっっていたので、病院の日には
なれて会うぐらいしかできませんでした。それは
いつもすぐくよろこんでくれました。それは
おばあちゃんもおじいちゃんも同じでした。
その時はみんな笑っていました。

いつも笑顔のひいおばあちゃんもうまくでき
なくてイライラもする。もちろんお世話して
いる人もそうになりました。

一人では何もできません。一人で全部やるの
は大変だけど小さい事でもやっていけば幸せ
にうながると思う。小さい幸せから誰にでも
幸せになれるようになると思います。幸せを
。幸せをもらったなら、幸せをあげれるから幸
せだと思いません。